



車載仕様静電容量方式
タッチパネル

Touch
Panel
Division

Connection
System
Division

Functional
Components
Division



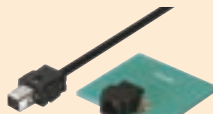
広角カメラモジュール



ロングストロークタイプ
トッププッシュスイッチ



モールドロック付
SMB同軸コネクタ



角型同軸コネクタ



FPCコネクタ

株主・投資家のみなさまへ

SMK

第92期 経営報告書

2013年4月1日から2014年3月31日まで

SMK株式会社

変化を捉えて、成長へ

■ SMK企業理念

SMKは可能性の追求を通して
総合的な高度技術により、
情報社会の発展に寄与する。

■ SMK行動指針

- 1 社会への貢献を考え、
誇りと自信をもって行動する。
- 2 ユーザーの立場を考え、
熱意と誠意をもって行動する。
- 3 高い目標を考え、
失敗を恐れぬ勇気をもって行動する。
- 4 明るい社風づくりを考え、
信頼と尊重をもって行動する。
- 5 世界の中のSMKを考え、
国際的視野をもって行動する。

CONTENTS

- 1 トップメッセージ
- 3 事業部門別の概況（連結）
- 5 新製品ご紹介
- 6 トピックス
- 7 連結財務データ
- 9 コーポレートデータ
- 10 株式情報

トップメッセージ

To Our Shareholders



● ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、当社グループ第92期（2013年4月1日～2014年3月31日）の事業の概況、業績等につきましてご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

代表取締役社長

池田 靖光

● 当期の概況

当期における世界経済は、緩やかに回復しました。米国では雇用環境の改善とシェール革命により回復基調で推移しました。中国は成長鈍化の兆しが見られたものの、全体としては成長のトレンドを維持しました。

日本経済においても、アベノミクス諸施策実施が円高是正をもたらしたことにより企業収益が改善し、回復基調にあります。

当社グループにおきましては、情報通信向け、自動車向け、インターネットプロトコル・セットトップボックス向け、太陽光発電向けなどを中心に堅調でありましたが、薄型TV向け、デジカメ向けについては引き続き低水準で推移いたしました。

このような状況の下、積極的な新製品の投入と営業力の強化に努めた結果、当期の連結売上高は前期比で増収となりました。

収益につきましても、増収の影響や、原価低減活動、固定費削減等諸施策の推進に加え、円高是正により前期比で大幅に改善いたしました。

● 新たな成長軌道への挑戦

今後、日本経済は金融緩和ならびに円安基調の継続の中で安定成長への道を歩むものと思われませんが、新興国経済の減速、地政学的リスクなどの懸念材料があり、先行きはなお不透明な状況にあります。

当社グループは、従来から取り組んでおります経費削減などの経営体質のスリム化による効率的な経営と体質の強化に注力し、現下の市場環境の変化への対応に努めてまいります。更に、中長期的に企業として発展を続けるべく、情報通信、自動車の各分野への取り組みを基本として、ウェアラブル端末、環境・エネルギー、ヘルスケア、スマートライフなどの新市場へ拡大するとともに、成長が期待される新興国市場の開拓を図ってまいります。加えて、顧客のニーズに即した新製品・新技術の開発、生産技術の高度化を進め、成長を継続できる企業体質づくりに万全の努力を払ってまいります。

2014年6月

事業部門別の概況(連結)

Review of Segment

SMKが生産する数々の電子部品やコンポーネントは、国内そして世界のエレクトロニクス業界で広く使用されています。その市場は「コミュニケーション」「インフォメーション」「ホームアプライアンス」「インダストリー」「カーエレクトロニクス」「オーディオビジュアル」「エコマーケット」に大別されます。

これら幅広い分野で、つねに市場のニーズに応えた製品を開発するために、商品企画から設計、量産までを担当するのが、「CS (Connection System) 事業部」「FC (Functional Components) 事業部」

「TP (Touch Panel) 事業部」の3つの事業部と、主に新規分野等の製品の設計、開発を担当する「開発センター」です。

ここでは、3つの事業部の事業部門別の概況をご報告します。

その他

134百万円

0.2%

売上高

CS事業部 | Connection System Division

[主要品目]

- 同軸コネクタ
- 基板対基板コネクタ
- FPCコネクタ
- ジャック



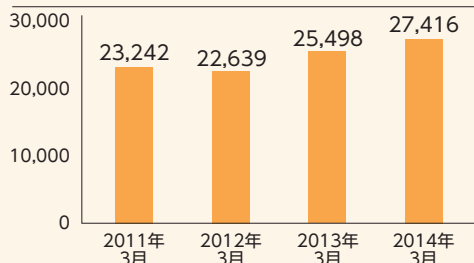
CS事業部

売上高 27,416百万円
(前期比 7.5%増↑)

売上高構成比 41.7%

売上高

(単位：百万円)



上半期は主力の通信市場で成長著しいスマートフォン向けに新製品採用が進んだこと及び標準品の展開が図られたことに加え、自動車市場、環境・エネルギー市場向けが好調であったことにより大きく伸ばしました。

しかし、下半期は変化の激しいスマートフォン業界において当社主要得意先の不振や価格下落の影響で急激な落ち込みとなり、結果として通期では前期比7.5%の伸びに留まりました。

情報通信・自動車・環境市場を重点市場とし、これからも伸びる機器・セットに向けた新製品開発を進めてまいります。

主力のリモコンでは、海外インターネットプロトコル・セットトップボックス、中でも映像視聴やゲームも楽しめるニューメディア向けで販売が大幅に伸びました。一方、日系薄型TVを中心としたデジタル家電の販売不振、当社部品採用のスマートフォンメーカーのシェアダウンによる販売では低迷が続きました。

今後も期待の省エネで注目される住宅設備関連やセットトップボックスを中心とした映像関連及び成長著しい車載市場に注力して事業の拡大を図ってまいります。

FC事業部

売上高 22,438百万円
(前期比 19.3%増↑)

売上高構成比 34.1%

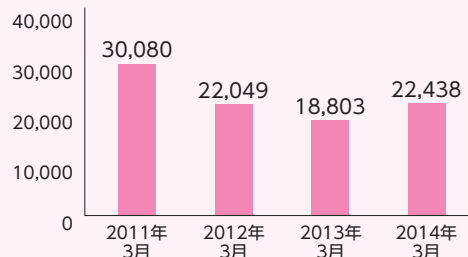


FC事業部 | Functional Components Division

【主要品目】

- リモコン
- 各種無線ユニット
- スイッチ
- カメラモジュール

売上高 (単位：百万円)



65,796
百万円

TP事業部

売上高 15,808百万円
(前期比 59.3%増↑)

売上高構成比 24.0%



TP事業部 | Touch Panel Division

【主要品目】

- 抵抗膜方式タッチパネル
- 静電容量方式タッチパネル
- 光学方式タッチパネル

売上高 (単位：百万円)



車載市場向けカーナビゲーション及びセンターコンソール用販売は、市場が好調に推移したため、北米市場向けを中心に大きく躍進しました。ATM市場向け販売も中国市場向けの一部に在庫調整が入りましたが、計画通り堅調に推移しました。スマートフォン向け市場は、需要は高まっておりますが、競争が激しく苦戦を強いられました。

今後は家電市場での静電容量方式タッチスイッチの需要増加にともない、曲面貼り付けが可能な製品などの開発や拡販を積極的に行ってまいります。

上記以外にも「その他」として1億3千4百万円の売上高があり、開発センターの売上高は「その他」に含まれます。

新製品ご紹介

New Product

New Product 開発センター Quick Active™ Actuator 「FBSシリーズ」

このたび、タッチパネルやタッチパッドなどのインプットデバイスに搭載することで操作面に触れた時に指先へ触感フィードバックを与えるQuick Active™ Actuator(アクチュエータ)「FBSシリーズ」を開発いたしました。

本製品は、従来の振動モーター・圧電素子などの方式



主な用途：PC関連、アミューズメント機器、健康器具等

に比べ、瞬間的に強い力を出せる為、良質なクリック感を実現します。これにより、インプットデバイスの操作性向上と誤動作防止にも繋がり、幅広い用途への採用が見込まれます。

New Product FC事業部 トッププッシュスイッチ 「ロングストロークタイプ」

従来のトッププッシュスイッチシリーズの特徴である薄型形状はそのままに、ロングストローク0.27mm(当社従来比1.8倍)を確保することによりしっかりと



主な用途：タブレットPC、スマートフォン、プリンター複合機

とした操作感を有し、動作寿命50万回という高寿命化(当社従来比5倍)を実現しました。近年、薄型・高寿命スイッチが求められるプリンター複合機に加え、各種産業機器、車載機器向けなど幅広い用途への搭載が可能です。

New Product CS事業部 バッテリー接続用FPC対基板コネクタ 「FB-5シリーズ」

バッテリー接続を主な使用用途とする、大電流対応 FPC対基板コネクタ「FBシリーズ」に新たに低背・省スペース構造を実現したFB-5シリーズを開発し、レパートリーを拡充いたしました。

本製品は嵌合高さ0.9mmの低背に加え、実装面積は当社従来品比約72%減という省スペース構造により、セットの小型・薄型化に貢献します。

今後も市場のニーズに応えた製品開発を行ってまいります。



主な用途：携帯電話、スマートフォン、デジタルカメラ、その他モバイル機器

New Product TP事業部 2段階入力、振動付 静電容量方式タッチパネル 「CapBeat Touch™」

タッチパネルに触れる指の面積が小さい時は入力せず、触れる面積を大きくすることで入力出来るタッチパネルを開発しました。静電容量方式タッチパネルの問題点でもある“触れると直ぐに入力されてしまう



主な用途：カーナビ、タブレット等

意図しない入力”を解決し且つ既に市場で好評を得ている“入力時に振動が指に伝わる技術(フォース フィードバック技術)”を加えたことでより確実な入力感を実感出来ます。

今後もユーザーの視点から新商品を継続的に開発してまいります。

1 フィリピン工場 第二工場用地を取得

当社グループは、フィリピンの生産事業所SMK Electronics (Phils.) Corporation第二工場の用地をクラーク開発庁より取得しました。

現フィリピン工場は当社グループのタッチパネルのメイン生産事業所です。第二工場用地取得は車載向けを中心としたタッチパネルの更なる需要増への対応と、スマートフォン用メモリーカードコネクタ、太陽電池モジュール用コネクタ等の本格生産に備えるものです。

第二工場は現工場の隣に位置し、製造面積は約5,000㎡を予定しております。この新工場の稼働により、製造スペースで現在の約1.5倍（16,000㎡）への生産規模拡充が可能になり、従業員も約2,300人から最終的には3,500人規模となる見通しです。

フィリピン工場は、当社グループ主要工場の一つとして、今後見込まれる需要増に対応してまいります。



2 障がい者アスリート^{はがまさゆき}羽賀理之 選手の雇用と活動支援

障がい者スポーツ文化の発展・振興を目的とし、ウィルチェアーラグビー（車いすラグビー）日本代表強化指定選手の羽賀理之（はがまさゆき）選手との雇用契約をいたしました。



羽賀選手には、2016年のリオデジャネイロ及び2020年東京パラリンピックへの出場を目指し、競技生活を優先しながら、当社の一員として人事関連業務・広報活動をしていただきます。

はがまさゆき 羽賀理之選手

プロフィール

1984年11月千葉県生まれ。専門学校在学中の交通事故により車いす生活となる。2006年ウィルチェアーラグビーに出会い、2009年に競技と語学学習のためにニュージーランドへ留学する。現在はウィルチェアーラグビーチームAXE（アックス）に所属。



主な戦績

2010年 2010年度強化指定選手、世界選手権 日本代表 銅メダル
2012年 2012年度強化指定選手、ロンドンパラリンピック 日本代表補欠
2013年 2013年度強化指定選手、アジア・オセアニアゾーン選手権 日本代表 銀メダル

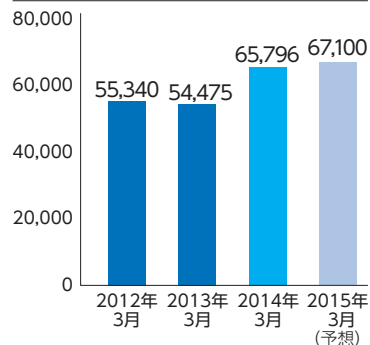
連結財務データ

Consolidated Financial Data

業績の推移

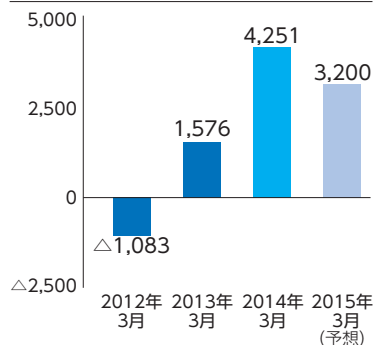
売上高

(単位：百万円)



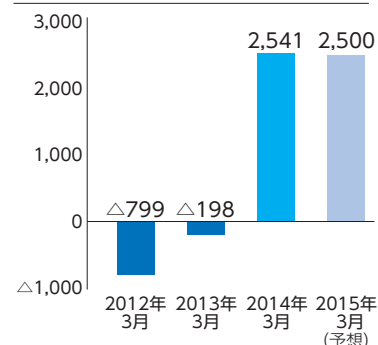
経常利益

(単位：百万円)



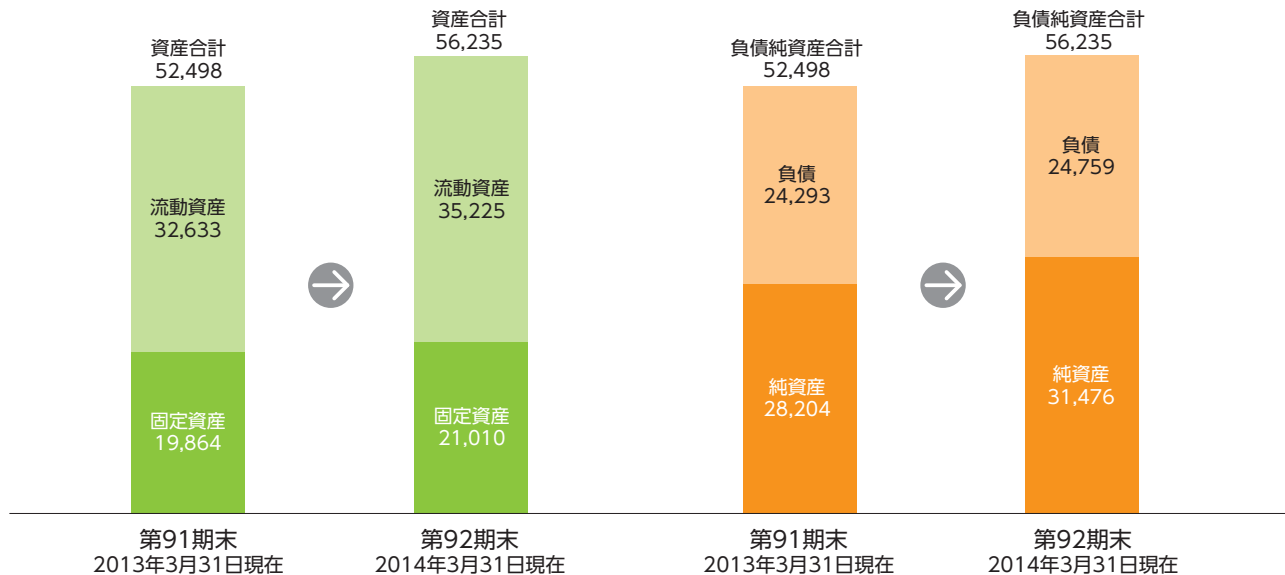
当期純利益

(単位：百万円)



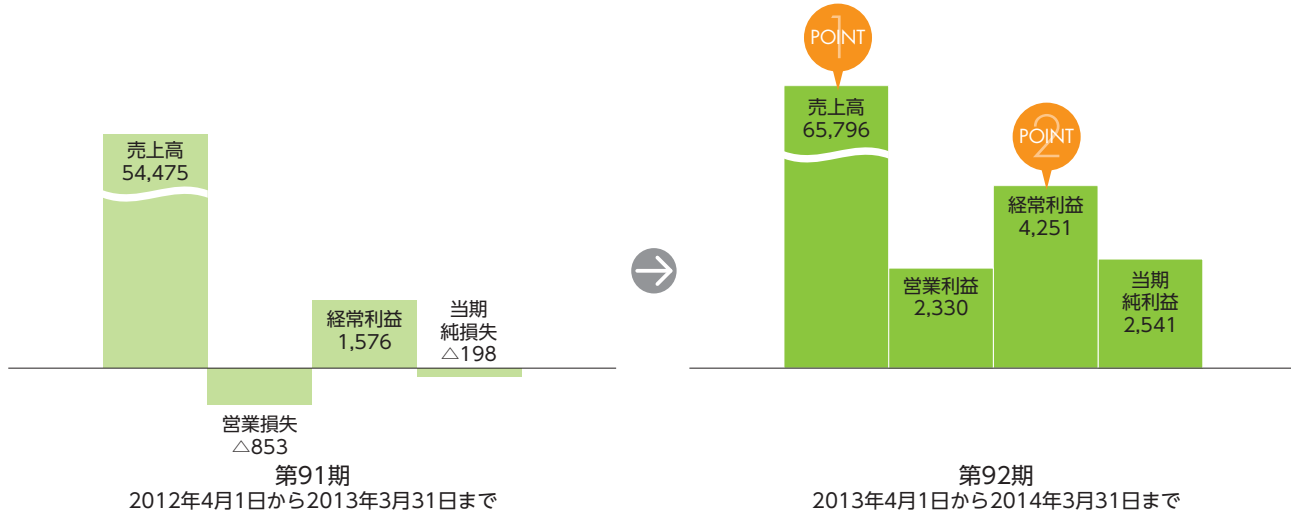
連結貸借対照表の概要

(単位：百万円)



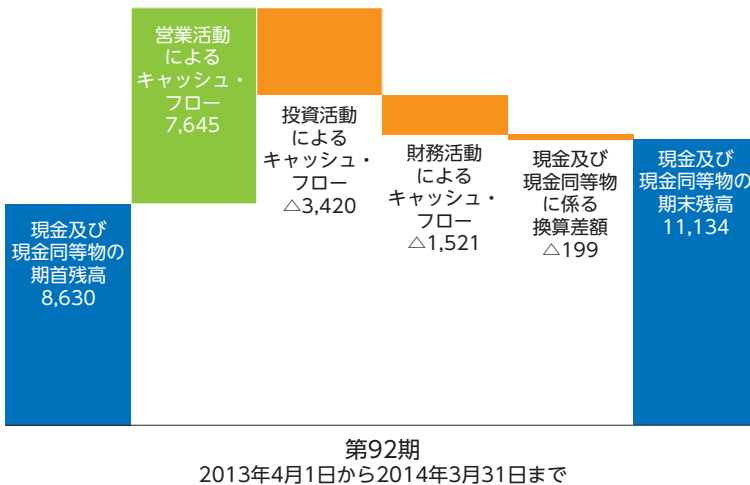
連結損益計算書の概要

(単位：百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：百万円)



POINT ① 売上高

売上高は、積極的な新製品の投入と価格競争力の向上、営業力の強化などに努めた結果、前期比20.8%増の657億9千6百万円となりました。

POINT ② 経常利益

為替の円高是正により、為替差益14億2千万円を計上いたしました。

POINT ③ 1株当たり配当金

1株当たりの年間配当金は10円とさせていただきます。(中間5円、期末5円)

会社概要

商号	SMK株式会社
英文社名	SMK Corporation
創業	1925年(大正14年)4月3日
設立	1929年(昭和4年)1月15日
資本金	7,996,828,021円
従業員数(SMKグループ)	6,470名
本社	〒142-8511 東京都品川区戸越6丁目5番5号 TEL (03)3785-1111(代表) FAX (03)3785-1878 ホームページアドレス http://www.smk.co.jp/

事業所一覧

国内拠点

ゲートシティ大崎・富山・ひたち・
大阪・名古屋・茨城・北陸・福岡

海外拠点

台湾・香港・中国・シンガポール・タイ・マレーシア・
フィリピン・韓国・ベルギー・イギリス・フランス・
ドイツ・ハンガリー・アメリカ・メキシコ・ブラジル

役員一覧 (2014年6月24日現在)

取締役および監査役

代表取締役社長	池田 靖光
代表取締役副社長	櫻井 慶雄
取締役常務執行役員	角 芳幸
取締役常務執行役員	若林 幹雄
取締役	棚橋 祐治
常勤監査役	池田 彰孝
監査役	山田 一
監査役	杉原 幸一郎
監査役	中島 成

執行役員

常務執行役員	ポール・エバンス
常務執行役員	大垣 幸平
執行役員	松本 秀夫
執行役員	磯田 勉
執行役員	宮川 宏
執行役員	柳 茂哉
執行役員	石橋 竹己
執行役員	関 晴孝
執行役員	池尾 政信
執行役員	後藤 光彦
執行役員	原 哲雄

当社ホームページのご案内

当社ホームページでは最新のニュースリリース、IR情報、製品情報、CSR・環境活動への取り組みなどもご覧いただけます。

URL <http://www.smk.co.jp/>

SMK

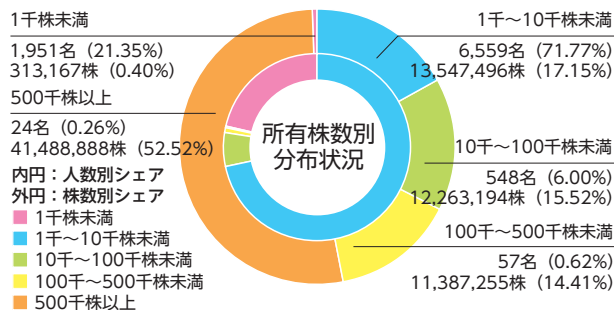
検索

株式の状況

発行可能株式総数	195,961,274株
発行済株式の総数	79,000,000株
株主数	9,139名
大株主 (上位10名)	

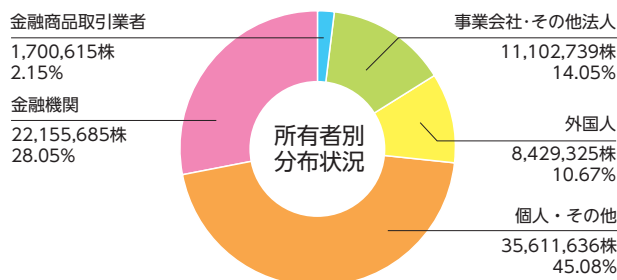
株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社みずほ銀行	3,531	4.90
日本生命保険相互会社	3,421	4.75
大日本印刷株式会社	3,200	4.44
SMK協力業者持株会	2,855	3.96
株式会社三菱東京UFJ銀行	2,508	3.48
三菱UFJ信託銀行株式会社	1,800	2.50
SMK社員持株会	1,703	2.36
日本スタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,611	2.23
公益財団法人昭和池田記念財団	1,500	2.08
池田 彰孝	1,454	2.02

(注) 当社は自己株式7,054千株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しており、また、上記持株比率は自己株式を控除して計算しております。



株主メモ

事業年度	4月1日~翌年3月31日
定時株主総会	6月開催
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
中間配当金 受領株主確定日	9月30日
定時株主総会の基準日	3月31日 上記のほか必要があるときは、 あらかじめ公告して定めます。
公告掲載URL	http://www.smk.co.jp/
上場取引所	東京証券取引所 (市場第一部)
証券コード	6798
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区 東砂7丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料) ホームページアドレス http://www.tr.mufj.jp/daikou/



株式事務のお手続き

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関
三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号
TEL：0120-232-7111(通話料無料)
ホームページアドレス
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

株式に関するお問合せ先・お手続き先

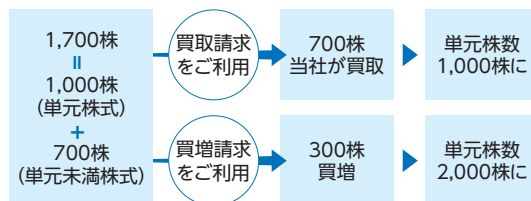
株式に関するお問合せ先および株主様の住所変更、**単元未満株式の買増・買取請求、特別口座から証券会社の口座へのお振替、配当金のお振込**等のお手続き窓口は、次のとおりとなります。

1. 証券会社の口座で株式をご所有の株主様：
株主様が口座を開設されている証券会社の本支店
2. 特別口座で株式をご所有の株主様：
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(上記「株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関」の連絡先をご参照ください。)
なお、未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

単元未満株式(1,000株未満の株式)の買増・買取請求のご案内

当社では、「単元未満株式の買取請求制度」および「単元未満株式の買増請求制度」を採用しておりますので、ぜひお手続きくださいますようお願い申し上げます。

● 買取・買増請求制度の例(1,700株ご所有の場合)



SMK株式会社

〒142-8511 東京都品川区戸越6丁目5番5号
TEL (03)3785-1111(代表) FAX (03)3785-1878
ホームページアドレス <http://www.smk.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

